

超上流要求工学の要求分析手法に基づく 要件定義書のレビュー手法の提案

メルコ・パワー・システムズ株式会社 眞鍋 慎一 Manabe.Shinichi@zf.MitsubishiElectric.co.jp

開発における問題点

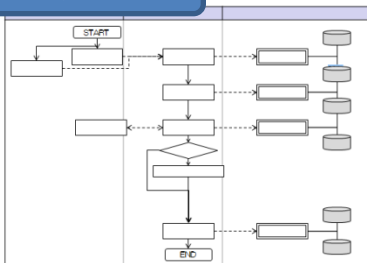
ユーザにとって真に必要なシステムを開発するためには要件定義プロセスは欠かせないが、要求の追加・変更が後々から発生することは珍しくない。限られたコストと工程で、①要件抽出の漏れを減らし、②要件の優先順位を把握するためにはどのような手法を適用するのが良いか、検証し実現方法を纏めたいと考えた。

手法・ツールの適用による解決

「①要件抽出の漏れを減らす」ために、RODANの役割依存モデルとCATWOE分析を適用することで見えてくる「違和感」から、抽出の漏れを見つける。
「②要件の優先順位を把握する」ために、RODANの役割依存モデルで要件に対する役割を定義し、論理的に優先順位を定義する。

要件定義書のレビューにおけるアプローチ

ワークフロー



要件一覧

要求ID	理由
JD003	特定の事前条件で使用する条件は全て、XML構文で定義可能とする
JD003-01	特定の事前条件と事後条件の結びつきをXML形式で保存するため
JD003-02	特定の事前条件として、アプリケーションの起動を表す内容をXML形式で定義可能とする
JD003-03	特定の事前条件として、アプリケーションに対する特定の操作(要求)を表す内容をXML形式で定義可能とする
JD003-04	特定の事前条件として、特定の操作(要求)を表す内容をXML形式で定義可能とする
JD003-05	特定の事前条件として、特定の操作(要求)を表す内容をXML形式で定義可能とする

要チェック!
・ワークフローに漏れ?
・優先順位は低い?

手順1. 関係者の役割を定義

Customer	Aセンター
Actor	B企業
Owner	C団体

手順2. フローと要件の役割比較

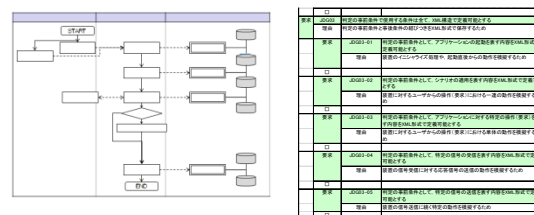
フロー	Customer	Actor	Owner
No.1	同じ	同じ	同じ
No.1	B	A	C
該当なし	A	C	D
No.2	同じ	同じ	同じ

手順3. 関係者一覧の作成

関係者	意見・主張
Aセンター	...
D団体	...

手順4. ワークフローと要件の見直し

- ・見落としていた関係者の要求はないか?
- ・新たなワークフローが見つからないか?
- ・注意すべきワークフローの要件は適切?



評価

- ・ワークフローと要件にRODANの役割依存モデルを適用することで、要件抽出が足りない関係者が存在することが判明。その関係者をCustomerとする要件の妥当性を確認し、必要な要件の漏れを抽出できた。
- ・関係者からの要件は、Owner > Customer > Actorの順で優先順位を定義することができた。
- ・RODANの役割依存モデルと併せてCATWOE分析を実施したが、"T", "W", "E"の抽出は必要最小限に抑えても影響は小さい。⇒時間の短縮につながる。

今後の展望

- ・複数の開発案件に対して試行を行い、データの収集と分析に基づいて、より効率が高く、対応範囲の広いレビュー手法の提案を進める。
- ・実践しやすいマニュアルを作成する。
- ・より確かな優先順位の定義を行うためにはKAOSのゴールモデル分析を適用することが望ましいため、KAOSのゴールモデル分析に対して効率の良い運用方法を検討する。